

特別の教科 道徳

学年	学習状況と課題分析	具体的な改善策
第一学年	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に意欲的な姿勢が見られるが、発言する生徒に偏りがある。また、グループで考えを共有する際に、話し合いが困難な生徒が見られる。 ・ワークシートについては、取り組み内容について個人差が大きい。 ・取り組んだ内容について、自己を省み、視野や考え方を広げようとする生徒も多くみられるが、表面的な見方、捉え方に留まり、実生活につなげる視点をもてない生徒もみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に個の学習状況を把握し、挙手する前に声をかけておくなど工夫する。また、場面によっては、タブレット端末を活用した意見共有を行い、他者の考えや意見に多く触れ、話し合い活動が活発になるよう工夫する。 ・ワークシートについては、複雑な発問や、曖昧な発問設定は避け、わかりやすく考えやすい発問を工夫する。 ・道徳での内容を実生活につなげる視点をもつためには、授業内で身近な生活に結び付けた振り返りをさせるとともに、学活や総合、日常生活など、道徳以外の場面で、道徳で学んだ価値観や考え方を関連付けた活動を取り入れていく。
第二学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに自分の考えを書くことが苦手な生徒がみられる。 ・自分の考えではなく、周りの考えに合わせている傾向がある。 ・ワークシートに書く内容や、発言することについて個人差が大きくみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの記述欄が四角の枠だけだと、考えをまとめて書くことが困難なので、選択肢を与えるなどして、自分の気持ちを表現しやすくする。 ・自分の考えに自信がもてていなく、周りの考えに合わせている傾向があるので、ペアワークなど少人数から意見交換をして、自分の考えに自信をもたせる。 ・班活動や考えを全体に共有するなどして、個人差を少なくする。
第三学年	<ul style="list-style-type: none"> ・一面的な見方はできるが、多面的、多角的な見方へと発展させるのが苦手な生徒がみられる。 ・道徳性を養うことの意義について理解し、主体的に学習に取り組むことは多くの生徒ができています。今後は新しい見方や考え方が生み出し、よりよく生きようとする姿勢を更に伸ばしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多面的な見方へと発展できるように、自分とは違う立場に立って問題点を捉えられるような発問の工夫をする。グループワークなどを積極的に取り入れ、他者の考えや意見に触れるような授業展開を工夫する。 ・身近な話題や社会的な課題等を自分との関係において考えられるような、スポーツや情報化への対応等、現代的な課題を題材など、生徒が問題意識をもって多面的に考えたり、感動を覚えたりできる教材の開発や活用をおこなう。